

令和 3 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム かつこう

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0392800017		
法人名	社会福祉法人 住田町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム かつこう		
所在地	〒029-2502 気仙郡住田町下有住字十文字89-2		
自己評価作成日	令和3年10月30日	評価結果市町村受理日	令和4年2月2日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

○日々、笑顔に繋がるように利用者の方々のお話を傾け住み慣れた地域で、馴染みある方々との関わりをもち続けられるように配慮しています。共同生活の中でそれぞれの役割りを見つけ共に支えあいながら暮らしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、山に囲まれた集落の中心部の郵便局や公民館、消防の屯所がある生活環境の良い場所に立地している。施設には、法人のデイサービスが併設され、昼食の調理、避難訓練の共同開催、看護師の助言など、互いの機能を活かし、協力、支援を行い、より充実した介護サービスを利用者に提供している。運営に当たっては、運営推進会議の意見や職員の提案を受け入れ、コロナ禍対策や災害時の対応、室内での行事、備品の拡充を図るとともに、家族の申し出や利用者の要望を聴き取り、食事や外出、趣味、お手伝いなど、利用者一人一人に対応した支援を提供している。また、医師や看護師の指示や助言の下、家族の意向に沿って事業所内での看取りを行なっている。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年11月25日

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム かつこう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分の目指す「かつこう」と題し、それぞれが考えを出し合い事業所理念に近づけるように努力している。	開設当初に定めた基本理念について、毎年、現状に即しているか、職員で話し合っている。基本理念を玄関や事務所に掲示したり、会議で具体的なケアの場面に置き換え話題にするなどして、介護の場面での意識化に努めている。「お互いに認め合いながら」「笑いのある生活」を目指す基本理念に沿って、利用者が笑顔で暮らせるように心掛け、支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム周辺を散歩しながらごみ拾いを始めている(1名)散歩で出会った地域の方々とは、挨拶等で交流している。(コロナの関係での制限が今はある)	地域の居場所づくりとして発足した「お茶っこ飲み会」は、毎回地域の楽しみとなっていたが、コロナ禍のために中止となり、地域との交流が少なくなっている。現在、ホーム周辺を散歩しながらごみを拾ったり、地域の方々や挨拶を交わすなどの交流はある。コロナ禍の収束に応じて地域との交流を再開したいと考えている。	コロナ禍にあっても入居者が地域とのつながりを持って暮らし続けるように、職員会議や運営推進委員会などで話し合いながら、工夫して取り組むことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症の支援方法を共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	帰宅願望の強い利用者に対するの取組みや、災害時の避難方法の改善等意見をいただいている。	会議では、入居状況や行事活動などの活動状況を報告しながら、重要事項の変更や防災、看取りの取組みなどについて協議している。委員から、「防災用ヘルメットに反射板を付ける提案」などをいただき、業務の改善に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括と保健福祉課の方に参加いただき、相談したり協力関係はできている。	行政情報は、運営主体の町社協や役場からメールや電話で受けている。町の担当とは、要介護認定申請などの相談に対応していただいている。町等の関係機関との情報交換等を行なっている。困難事例については、町と協働して対応している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム かつこう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は中からは自動ドアのスイッチを押さないと出られないつくりにはなっているが、自由に入出入りできるようにスイッチを切っている時もある。身体拘束について委員会があり定期的に話している。	身体拘束適正化委員会は運営推進会議と兼ね協議している。ケアの実践において、帰宅願望のある入居者対応では、話をよく聞き、状態に応じ一緒に外に出たり、見守ったりと、利用者に合わせて対応を行なっている。玄関は、防犯目的で夜間20:00から翌朝6:00頃までの間は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉による虐待、ネグレクトについては、職員間でも注意しようと会議の中で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象者がいない為、成年後見制度についてなど学習の機会を設けていない。今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明となると不安はあるが、ご家族の不安や疑問点を伺い応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の投書はないが、運営推進会議で発言をしていただけるように促がしたり面会時に伺うようにしている。	全ての入居者は、意思表示ができ管理者や職員に自由に思いを伝えることができる。寒い時は、利用者の求めに応じ湯たんぼを入れたり、コタツやパネルヒーターなどの暖房を入れて温かさの調整をしている。利用者の希望は、食べ物や外出がほとんどである。家族が来訪された際には声がけし、話しやすい雰囲気を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の中で業務や運営について話題になっていることを復命書で報告し必要ことは事務所に相談している。	朝の申し送りや職員会議で、業務や運営について話し合い、法人の管理者会議でも職員の意見や要望をテーマに取り上げ、運営に反映している。職員の家庭事情による勤務時間の変更や入居者の転倒防止対応など、管理者は職員と一緒に話し合いながら支援の在り方などを調整している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム かつこう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の職員会議で業務について話し合い、より良い職場作りを目指している。また、昨年より人事考課を行い定期面談と評価を行っている。社協でストレスチェックは毎年実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修を担当を決めて行なっている。また研修希望者があれば研修に参加している。ケアマネ資格取得を目指している職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や社協職員研修、その他の関係機関の研修は、コロナ禍ということもあり、中止も多く参加も減っている。今年度は福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程、チームリーダー編と認知症実践者研修に参加した。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、不安に思っていることなどを伺い職員で共有している。必要時は、御家族に電話して話をさせていただき安心していただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される時に、御家族に希望や願いを伺い、心配事がないか等伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今年度は、他のサービス利用対応を行っていないが、入所後の様子をみながら、他のサービスの地域カフェやミニデイへの参加も検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で食事準備や片付け、掃除等それぞれで出来る事を行っている。本人の状態を見ながら、得意な事は、教えていただいたり、一緒に取り組んでいます。畑作りや花の手入れ等教えて頂いている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム かつこう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため玄関でのアクリル板ごしの面会や電話、ビデオ電話でご家族との絆を大切にしている。かつこう新聞で定期的にかつこうでの様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため以前のように会えなくなっていたが、電話やライン電話、短時間でも会えるように支援している。	これまでは、家族の他、親戚や近所の人への来訪も多く、馴染みの人との交流があったが、コロナ禍のため以前のように会えなくなっている。この頃、家族と自宅に行ったり、姪が居室で整髪したりと、少しずつ馴染みの人との関係を復活しているほか、電話やラインで家族との関係継続を支援目指している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立している人はいない。自分の時間を大切にしながらレク活動等を行い穏やかに過ごしていたできるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した利用者のご家族が訪れてくれ、かつこうでの暮らしを懐かしんでくれることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員会議や日々の申し送りのときに本人の訴えや思いを話し合い、買い物への希望があれば出掛けたりドライブへ出掛けたりしている。	本人が答えやすいように問いかけ方を工夫しながら思いや意向の把握に努めている。物が無くなったという時には一緒に探し、家に帰りたいという時には車に乗せ自宅まで送っている。入居者によっては、人の役に立ちたいとチラシでゴミ箱を作ったり、介護職員から古着を頂きウエスを作り提供している人もいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	小さな町なので、生活歴や職歴などの情報は入りやすく、本人の話からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調の変化や、精神状態等ケース記録などで情報を共有している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム かつこう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランで補えきれない細やかなケアは、ケアカンファレンスで考えているのではないと思う。御家族に関しては、面会時や電話でご意見を頂いている。	3か月毎にモニタリングを行い、見直しも併せて行っている。ケース検討は、毎月の職員会議で行ない、来訪時等に伺った家族の意見・要望や利用者の「～したい」という思いを計画に反映している。計画作成担当者が家族の同意を得て計画の成案を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各自のケース記録やその日の気付きや様子を記載し職員間で共有している。特に留意することや大事なことは申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は、遠くにいるご家族による通院介助が難しいため今年から職員が病院介助ができるように体制を整えた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館で作った手打ちたそばを差し入れしていただいたり、近所の理容院に出向いていただき散髪していただいている。ご近所からの野菜や柿をいただき、干し柿作りなどに精を出している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と連絡をとり合いながら、受診日にそれまでの状態を記録し医師に上申できるようにしている。ご家族の希望で仙台から地元へ転院した方もおられ、受診対応している。	コロナ禍の通院対応が困難になって転院した入居者以外は、入居前のかかりつけ医を継続利用している。家族が通院に付き添う場合には、バイタルチェック記録と伺いたいことを記載したメモを託し、受診後に家族から口頭で受診状況を伺っている。職員が付き添った場合には、その都度、電話やメール、通院報告書で家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護「すみちゃん」が毎週水曜日に訪問している。事前に情報を伝えて、状態観察や処置をしてもらっている。相談したことやアドバイスがあったことは、報告を回覧してその都度確認している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム かつこう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院するときは町外の病院となる。入院した時には、連携シート等必要な情報を提供し、退院時には電話でのやり取りで対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した時の意向調査を行っている。施設に医療職がいいため、その時の状態と処置によってご家族と相談していく予定。前年度は、訪問診療と訪問看護との医療連携で看取りにも取り組んでいる。	入居に際し、終末期や急変時の対応を説明している。看取りは、医療との連携が取れる範囲で出来るだけ対応することとしている。今年の4月にも訪問診療と訪問看護の下で看取りを行っており、法人内の入浴車を活用し、隣接のデイサービスの看護師のサポートを受け、法人全体で取り組むことができたとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各自の病気から考えられるリスク対応を会議の中で確認し急変時に訪問看護に相談しながら対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回実施し、施設外への避難訓練、夜間想定避難訓練を行っている。夜間の緊急体制は、地域の方々、消防署との連携体制等、再確認している。	火災・地震・土砂災害などを想定した施設外への避難訓練のほか、夜間想定避難訓練を行っている。土砂災害の訓練では、公民館を避難場所に行っている。夜間想定避難訓練は、運営推進会議開催日に行っており、地域の方にも声を掛け実施している。食料や発電機、暖房器具など備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちを尊重した支援を心掛け、個室に入るときには声掛けや、トイレ介助の際のプライバシーに配慮している。	一人一人の気持ちを尊重した支援を心掛け、プライバシーにも配慮している。職歴により畑仕事、調理、清掃などのお手伝いや趣味などに活かしている。言葉遣いに注意し、入居者には、声を掛けてから視線を合わせ、声のトーンにも配慮して、聞こえるようにゆっくり話すことを意識している。失禁など、恥ずかしさにも配慮している。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム かつこう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でどのようにしたいのか、ご本人に伺いながら行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は、みんなで集まるが、体調に合わせて自室で食すこともあり、ご本人が選択できるような声掛けを意識している。レク活動も本人のペースに合わせて伺いながら行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でできる方は自由に行っている。難しい方は季節や天候に合わせた衣類を職員が一緒に準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中から食べたい物を伺っている。準備や片付けは出来る方と一緒にしている。また地域の方々から頂く野菜等あるので、どのように調理するか相談している。	調理は、職員が主に行っている。入居者は下ごしらえを行ったり、交替で盛り付けを行ったりと、できる範囲で一連の調理作業に参加している。地域の方々から、ジャガイモや大根、白菜などの野菜を頂くので、入居者に相談しながら調理している。コロナ禍で中止となっていたが、最近入居者と月3回位は買い出しに出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食のご飯は計量している。食事形態は食べやすいように工夫している。塩分を取り過ぎにならないように夕食は基本、味噌汁なしで対応している。水分摂取量も一日1リットル以上になるように促がし、摂取量も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食の口腔ケアの声掛けは行い、必要に応じて援助している。年1回歯科検診を行い、ブラッシング指導を受けたり必要な方は治療を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のある方はご自分でトイレに行っている。その他必要な方は、排泄記録を確認しながら声掛け誘導を行っている。移動が困難な方は夜間、自室でポータブルトイレを使用している。	尿意のある方はご自分でトイレに行っている。その他支援が必要な入居者には、排泄記録で排泄パターンを確認しながら声掛け誘導を行っている。羞恥心や不安への配慮として、失敗した時には、そっと部屋に移動し介助したり、頻回にトイレに行く入居者には、安心するように声掛けし対応している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム かつこう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の確認が出来る方は、チェック表に排便状況を記録している。便秘になりやすい方は、排便記録や本人からの確認で、下剤の調節を行い、無理のない排便を促がしている。水分や、ヨーグルト、ヤクルトも摂取していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的には、午前中にお誘いをしている。その日の活動や行事によって適宜変更することもあり、ひとりひとりの希望に沿った湯加減や長さで入浴対応している。	月曜日から土曜日の午前中に3名ずつ入浴している。入浴前には、体調や気分を聞き、入浴したくない方は無理強いせず、別の日で対応している。声掛けしながら脅かさない入浴支援を行っているほか、入居者の異性への心情に配慮した対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように配慮しながら、各自の体調で安静が必要な時には、休息できるようにしている。夜間眠れず、不安のある方は起きてきた時に話を伺ったりその都度状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の都度もらってくるお薬情報を回覧したり、薬の変更によって体調の変更がないか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に生活する中で知りえた情報などから、やりたい事や行きたいところなどを引き出し活動に繋げている。また、個々に行っている製作は、文化祭などに出展し見に行くことも楽しみしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日の散歩、ドライブは、気分転換になるように外出の機会を持てるように配慮している。秋にはリンゴ狩りと町外へ出かけている。また、姪御さんと一緒に買い物やめがねをつくりに出かけた方もおられる。	天気の良い日は、外での日光浴や外気浴を行うほか、散歩を楽しんだり、草取りや庭の手入れを行っている入居者もいる。気分転換になるように外出の機会を持てるように配慮しており、午前と午後に分かれてドライブに行ったり、秋にはリンゴ狩りで町外に出かけている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム かつこう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもと、金銭の管理をしている人もいます。欲しい物がある時は買い物支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話を希望した時には、状況を見ながら対応している。また、ご家族からの電話の取り次ぎもおこなっている。手紙に関しては、ハガキをやり取りしたこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、好きなどころで過ごせるように座れる場所を準備して、出来るだけ落ち着いて過ごしていただけるように配慮している。	玄関や廊下、トイレなどの共用空間は、入居者に不快や混乱を招くような刺激が無く、清潔感がある。広く細長いホールは、食事のスペースと寛ぎのスペースがあり、壁には大小様々な作品や入居者の写真が貼られている。ソファや腰掛を随所に置いており、一人でも数人でも寛げるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアは広いため、活動内容によっては、場所を移動しての活動や、1人での作業も行っている。ソファや椅子が各所にあるので話し語りができるようには、なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきていただいている人もいます。畳とベッドは、身体状況や認知状況に配慮して本人やご家族と相談して提供している。	居室の入り口には、分かりやすいように名前を大きく付けており、流行り病に罹らないように願いを込めて「アマビエ」の絵を貼っている。居室にはパネルヒーターや洗面台、クローゼットが備えられ、畳とベッドは、本人やご家族と相談しながら提供している。入居者は、仏壇や亡夫の写真など持ち込み、壁には季節に作った作品を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂の表示を大きくしたり個室に名前を大きく付けて「わかる」工夫をしている。ソファなどの配置は、歩く時に掴れるところに配置している。		